

～北茨城市での過去5年間の熱中症搬送人数について～

令和5年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員は91,467人でした。これは調査開始以降、過去2番目に多い数値を記録しました。昨年は非常に厳しい暑さが長期間にわたって続き、5月から7月及び9月がそれぞれの月で過去2番目、8月が過去3番目の搬送人員となりました。

北茨城市でも、平成22年から熱中症搬送件数調査を始めて以降、熱中症による救急要請件数は増加傾向となっています。

昨年（令和5年）は、調査を始めてから過去最多の34人の方が救急搬送されました。今年もさらに暑い夏が予想され、救急要請件数が増加すると思われます。より一層の熱中症予防・注意をしていただくようご協力をお願いいたします。

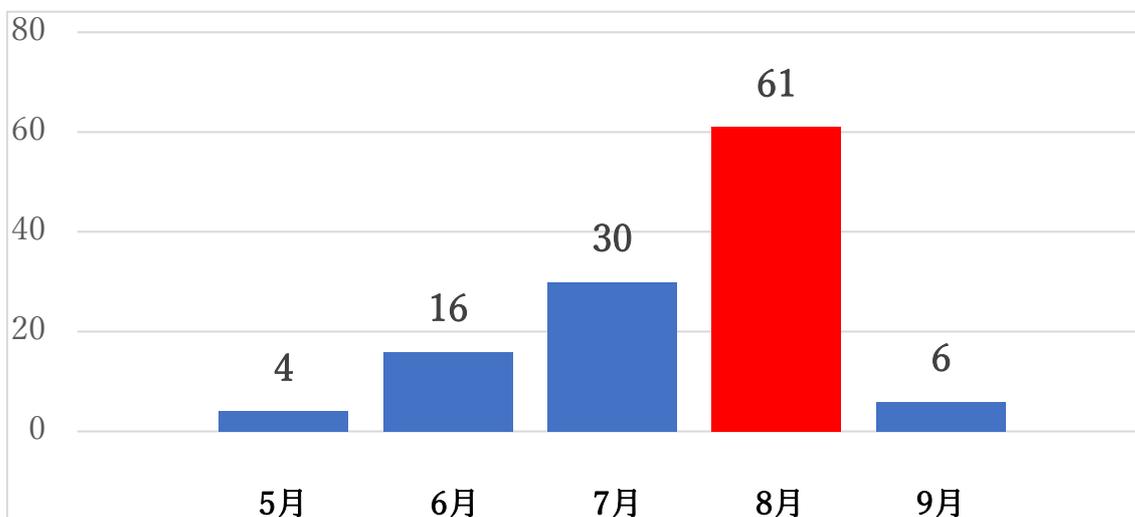
北茨城市の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、初診時における傷病程度別等の内訳は次のとおりです。

- ・救急搬送人員の年齢区分別では、高齢者（65歳以上）が最も多く、次いで成人（18歳～65歳）、少年（7歳～18歳）の順となっています。
- ・搬送された医療機関での初診時における傷病程度別にみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
- ・発生場所別の救急搬送人員をみると、住居が最も多く、次いで仕事場（屋外作業場など）公衆の出入りする場所（屋外）の順となっています。



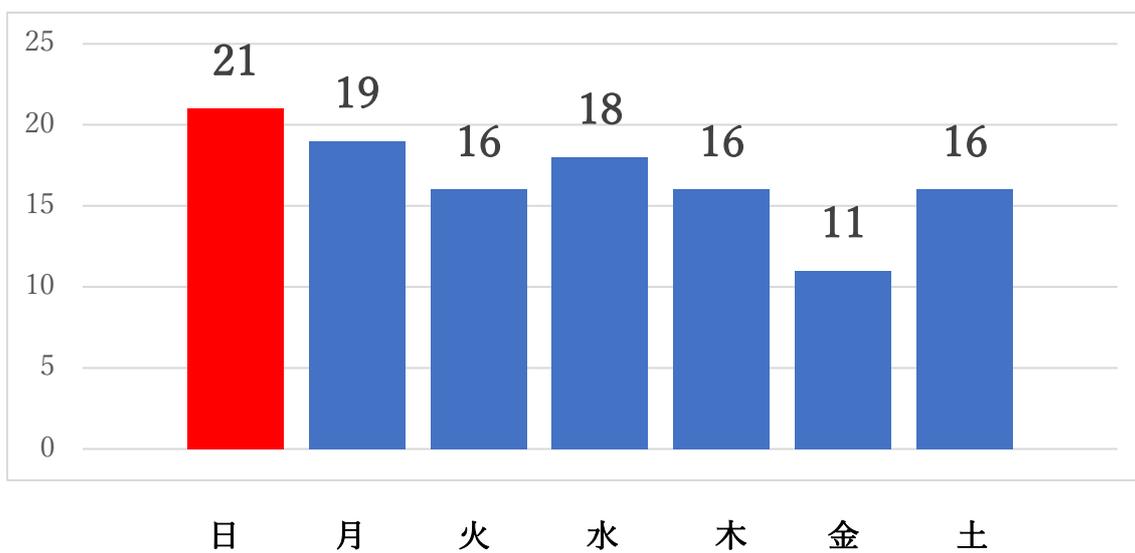
1、月別搬送人員

全国のデータと同様、北茨城市でも搬送人員が8月にかけてピークをむかえます。



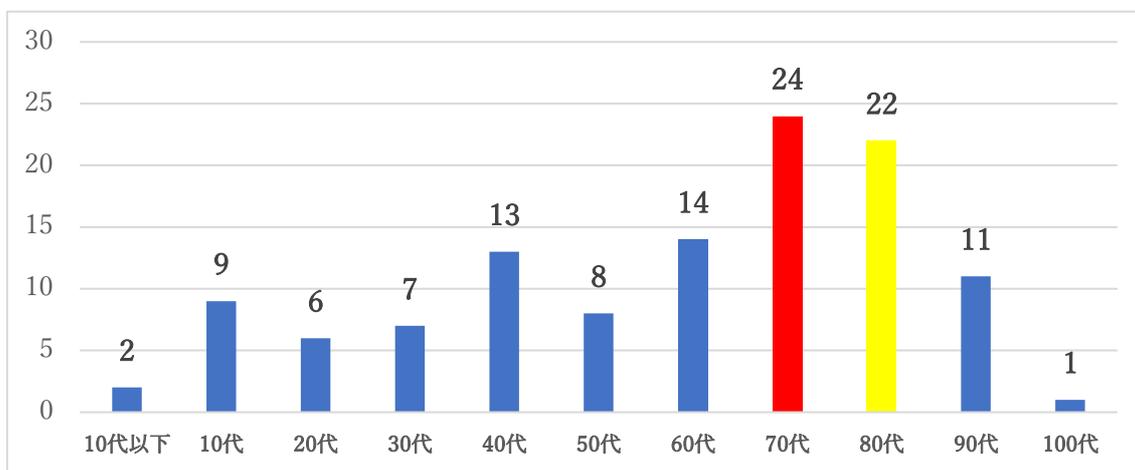
## 2、曜日別搬送人員

日曜日・月曜日が若干多く火曜日以降は、ほぼ横ばいとなっています。



## 3、年代別搬送人員

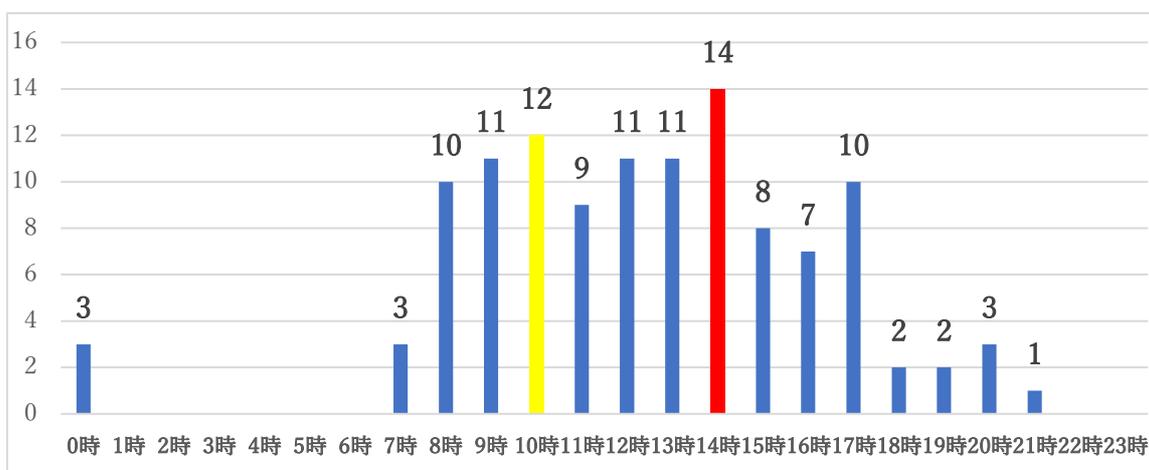
主に10代～20代は屋外での運動中、30代～60代は屋外での仕事・作業中、70代以上は畑仕事・草刈り中の発生が多くみられます。また近年、独居の方や高齢者が暑熱環境下の住居内で動けなくなっているのを、隣人らが発見するという事例も増えてきています。



#### 4、時間帯別搬送人員

熱中症の発症時刻には3つのピークがあります。第1のピークは朝7時～10時にかけて畑仕事や草刈りをしている70代以上からの救急要請が多くなります。次に日中に運動や作業を行う10代～60代が中心とした第2のピークが気温の上昇とともに14時頃に向け増加します。最後のピークが、17時頃の救急要請です。仕事中に体調不良（熱中症）になり、帰宅後に自宅で様子を見ていたが、改善をしなかった。もしくは、帰宅後、アルコールによる水分補給をしたため体調不良が増悪してしまう傾向が多くみられます。こまめな水分・塩分補給をお願いします。

※注意：アルコール類は水分補給になりません。





参考資料

総務省消防庁

一般財団法人日本気象協会 HP 「熱中症ゼロへ」

日本赤十字社 救急法テキスト 等